

**新型コロナウイルス対応緊急支援助成  
事業計画（実行団体）**

事業名(主)	コロナ禍でもつながる居場所推進事業
事業名(副) <small>※任意</small>	いまこそ必要な地域の活動を支える

入力数 主 17 字 副 16 字

実行団体名	諏訪圏域子ども応援プラットフォーム
資金分配団体名	NPO法人 全国こども食堂支援センター・むすびえ

**優先的に解決すべき社会の諸課題**

領域	分野
<input checked="" type="checkbox"/> 1) 子ども及び若者の支援に係る活動	<input checked="" type="checkbox"/> ①経済的困窮など、家庭内に課題を抱える子どもの支援
	<input checked="" type="checkbox"/> ②日常生活や成長に困難を抱える子どもと若者の育成支援
	<input checked="" type="checkbox"/> ③社会的課題の解決を担う若者の能力開発支援
<input checked="" type="checkbox"/> 2) 日常生活又は社会生活を営む上での困難を有する者の支援に係る活動	<input type="checkbox"/> ④働くことが困難な人への支援
	<input checked="" type="checkbox"/> ⑤社会的孤立や差別の解消に向けた支援
<input checked="" type="checkbox"/> 3) 地域社会における活力の低下その他の社会的に困難な状況に直面している地域の支援に係る活動	<input type="checkbox"/> ⑥地域の働く場づくりの支援
	<input checked="" type="checkbox"/> ⑦安心・安全に暮らせるコミュニティづくりへの支援

上記以外 その他の解決すべき社会の課題	<input type="checkbox"/>
------------------------	--------------------------

入力数 0 字

**SDGsとの関連**

<b>ゴール</b>
_1.貧困をなくそう
_3.すべての人に健康と福祉を
_4.質の高い教育をみんなに
_10.人や国の不平等をなくそう
_11.住み続けられるまちづくりを

<b>実施時期</b>	2020年11月 ~ 2021年10月	<b>事業対象地域</b>	全国 <input type="checkbox"/> 特定地域 <input checked="" type="checkbox"/> ( 諏訪地域を中心とする )	<b>事業対象者： (事業で直接介入する対象者と、その他最終受益者を含む)</b>	長野県諏訪地域のこども食堂、こどもを中心とした居場所運営団体、居場所運営を目指す方、居場所への参画を希望する方、こども、若者、保護者、地域に暮らす方、地域の企業	<b>事業対象者人数</b>	居場所運営に関わる方800名（登録団体80×10名） こども2万名 諏訪地域に暮らす20万人
-------------	---------------------	---------------	--	---	--	----------------	--

**I.団体の社会的役割**

<b>(1)申請団体の目的</b>
子ども・若者支援を行い、子どもの居場所を運営する、若しくはしようとしている者及び団体が相互にネットワークを結ぶことにより、また、新たに子どもの居場所を開設しようとする者の求めに応じて、学習支援、食事提供、悩み相談等のノウハウを提供することにより、地域の実情に応じた数多くの多様な一場所多役の子どもの居場所づくりを推進することを目的とする。
<b>(2)申請団体の概要・事業内容等</b>
長野県諏訪地域のこども食堂や居場所を推進し、こどもの育ちを見守る地域づくりを目指して、居場所等を運営する団体、こども支援に取り組む団体、自治体、社協、個人が登録し、連携の体制を作っている。これまでに講演会、交流会、人材育成や課題解決のための研修会などを開催。食材提供や助成情報、地域の情報を民間、行政問わず紹介し共有。登録会員130件ほどに情報を配信。HPやFacebookでも広く情報を発信。

入力数 (1) 169 字 (2) 198 字

**II.事業の背景・社会課題**

<b>新型コロナウイルス感染症により深刻化した社会課題</b>
2020年2月頃より、新型コロナウイルスの影響でこども食堂などの休止が相次ぎ、開所しても感染予防対策や運営の悩みを多く抱えていた。長年継続してきたこども食堂、居場所の休止により、孤立化する家庭、こどもがいることを感じながらも、運営者の多くが高齢であることも影響し開催への悩みを抱えていた。感染拡大予防のノウハウや消毒液、マスクなどの確保の問題はもとより、偏見や差別、同調圧力による評判を気にすることも大きな要因となる。実際に3月に実施していたこども食堂の新聞取材記事に抗議の声が届くこともあり、コロナ禍での居場所の開催に悩んでいる。コロナ禍で居場所の活動が休止したことにより、地域のこどもや若者、地域の方の居場所の普段の活動の重要性や課題が浮き彫りになった。長野県諏訪地域（岡谷市、諏訪市、茅野市、下諏訪町、富士見町、原村）のこども食堂や居場所運営団体、各自治体、社協などとの連携を促し、団体へ食材提供しながら実際に居場所を訪れて現場の声を聞き、意見交換や連携を促す活動を行うが、活動団体へのより丁寧なアウトリーチの支援が必要とされる。生活に困窮しても声が出せない方々のセーフティーネットとしての役割の地域の拠点が少なくなる中、工夫してフードパントリーや弁当配布をする団体も、普段の活動より資金が必要になり、各団体への補助金の情報提供をするが、慣れないため申請へのアドバイスや支援の必要性がある。また、オンライン、SNSなどの活用も進まない現状がある。しかし支援する当団体も、運営委員は居場所実施団体のメンバーであるため、各自の居場所の運営をしつつ、仕事をしながらのボランティアの支援活動になり、一つ一つの団体への丁寧な支援の必要性を感じながらも、登録団体の支援が思うように進まない。運営委員も職種によっては収入も減り、相談や支援を求める声が増えても、中間支援の活動の継続はさらに難しい現状がある。

入力数 799 字

III.事業内容

<b>(1)事業の概要</b>
<p>コロナ禍でこれまで以上に、地域の課題が浮き彫りになり、地域に根差した居場所やこどもの支援が必要とされるが、各活動団体も運営に悩む現状があることから、運営団体の悩みや課題を聞きながら訪問するコーディネーターを設置する。これまでの登録団体の活動を紹介するHPを最新に更新し、実際の活動が地域の必要とされる方に届きやすくする。相対的困窮など目に見えづらい貧困状態の子どもや家庭を地域の活動に繋がりやすくするため、これまで作成してきた冊子やマップを活用し、地域のイベント等でも広報する。また企業のSDGsの取り組みとの連携により活動団体と繋げ、新たに活動を始めたい地域の方を支援し、若い世代の活動の参加を促す。</p>

入力数 300 字

<b>(2)事業実施後（1年後）以降に目標とする状態</b>
<p>諏訪地域において、子ども食堂や居場所の事業に関わる連携団体80件が企業を含め100件以上に増加し、活動団体と行政や民間企業の連携ができ、より子ども等の支援が行き届く。団体の課題解決のための交流の場を持ち、課題に合った研修や合同の企画などが自発的に行われる。地域や企業のボランティアの人材や食材提供の仕組みができ、企業との連携を深め、市民活動団体の協働の事業が進み、行政では行き届かない課題を解決する。</p>

入力数 200 字

(3)今回の事業実施で達成される状態（アウトプット）	実施・到達状況の目安とする指標	把握方法	目標値/目標状態	目標達成時期
<ul style="list-style-type: none"> <li>・現在登録している80余りの活動団体に加え、新規の登録の団体の情報紹介をHPで行い、メール等での情報の配信をする。HPやSNSで活動団体も居場所を利用することもや地域の方へわかりやすい情報の掲載と発信を行うことで、活動する団体や個人や、居場所利用の子どもや地域の方へも居場所の情報が行き届く。</li> <li>・居場所のコーディネーターの直接訪問による食材や情報の提供、各団体の更新情報や課題の聞き取りを行い、企業へはCSR、SDGsの研修や連携事業の提案をする。活動団体と企業や支援団体、行政とのマッチングや活動支援をすることで、食材提供、資金確保の仕組みをつくり、各団体のウィズコロナ、アフターコロナの時代に合った運営の形の確立を促す。</li> <li>・団体の運営に参画する住民や子ども支援団体の増加、人材育成、課題解決のヒントとなる研修会や講演会（ドーナツトーク田中氏）を行い、子どもや地域住民の利用が拡大し、地域の支援体制が整う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2018年に居場所紹介冊子とともに作成したHPの掲載の情報は、当時32団体の掲載であったが、各団体の情報の更新が必要であり、新しい登録団体や企業、行政の情報も追加する。登録団体や個人、居場所を利用することもや地域の方、それぞれが必要な情報を得やすいHPを整理する。掲載団体数、SNS、HPの訪問数</li> <li>・活動団体の課題について、登録団体やこれから居場所を立ち上げたい方などの意見交換会の回数、参加人数</li> <li>・登録団体の更新情報や課題の聞き取りの訪問支援数、課題の整理とニーズの把握</li> <li>・SDGs、CSR、ファンドレイジングなどの研修、講演会などの実施状況。参加人数とアンケート。研修会では企業と各団体が一緒にできるようにカードゲーム等を活用。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・HPの掲載団体数と更新、訪問数のカウント、各団体への訪問時にHPの見やすさ、活用のしやすさのアンケートを行う。</li> <li>・意見交換会の回数、参加者数のカウント、参加者の属性の研究、ニーズの把握等意見の収集。</li> <li>・団体への訪問数、支援数のカウント、支援内容の聞き取りのまとめ、各団体へのアンケート</li> <li>・研修会等の開催数、参加人数のカウント、参加アンケートによる理解度やニーズの把握</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現在の登録団体80件中のHP掲載32団体を50団体に増やし、行政などの窓口や居場所についてを掲載し、地域のプラットフォームとして必要な情報が行き届くようにする。</li> <li>・意見交換会月1回以上、参加人数一回10名。状況に応じてオンラインでの意見交換も併用し意見交換しやすい環境を作る。</li> <li>・コーディネーターによる各団体、企業、行政への訪問月5～10件×メンバー5名。</li> <li>・行政、企業との連携事例数目標30件</li> <li>・訪問した団体の様子、意見交換などでの聞き取り内容のまとめの情報誌の作成</li> <li>・事例紹介、アンケート結果のまとめ冊子の作成</li> <li>・研修会等の参加目標のべ100名</li> </ul>	<p>HP掲載2021年11月 交流会、訪問支援2021年11月 情報誌作成配布完了2021年11月 冊子配布完了2021年11月 研修会2021年11月</p>

(4)活動	時期
HPの更新、掲載団体情報の情報整理、新規団体情報更新、開催情報更新、メンテナンス等を行い、誰でもわかりやすいHPにする	2020年12月～2021年11月
SNSでの情報発信、登録会員へのメールでの情報発信を行い、居場所運営団体や個人へ届きやすい情報を常に発信する。	2020年12月～2021年11月
運営団体を訪問し、活動の課題を調査するコーディネーターにより、各団体、行政、企業、地域住民、学生などとの連携を促す。	2020年12月～2021年11月
コーディネーターによる、食材提供団体、企業等の食材などを諏訪地域の活動団体への配布。	2020年12月～2021年11月
ニーズに合った研修会の実施。SNS講座、コロナ禍での運営方法に関わる研修、資金確保の研修等を、会場やオンラインで開催する。	2020年12月～2021年11月
活動団体の課題などの情報を共有するための意見交換を行う場を作り、課題解決に向けた取り組み事例などを共有する。	2020年12月～2021年11月
コーディネーターによる各団体へのアンケート等の調査をまとめた報告書の作成。情報誌やHPなどによる紹介。	2021年4月～2021年11月
コーディネーターの資質向上と連携を促す事業の推進のために研修、資格試験を受ける。	2020年12月～2021年11月
SDGs地域創生ファシリテーター、ファンドレイザー、CSR3級	
登録情報の整理、申し込み、問い合わせ対応等の事務処理を行う。	2020年12月～2021年11月

IV.事業実施体制

<p>(1)メンバー構成と各メンバーの役割</p>	<p>【コーディネーター】石城正志（企業連携担当）、小林佳代（団体連絡担当）、上條美季（情報誌・冊子編集、団体支援担当）、半田裕（遊び場支援担当）、宮原規夫（相談人材育成、食材担当）、井出ゆか（編集、若者担当）、宮澤節子（相談人材育成）、吉田浩（SNS支援担当）、村上朱夏（学習支援担当）、木村かほり（事務局、企業支援、団体支援担当）、市川里奈（食材、団体支援担当）</p> <p>【事務】八幡カオリ【経理】山田由紀乃</p>
<p>(2)他団体との連携体制</p>	<p>【こども食堂居場所実施団体】みんなの居場所ゆめひろ、子ども食堂ちゃんちゃんこ、みんなのお家すまいる、岡谷子ども食堂を真剣に考える会、おやあ？カフェ、Glück（グリュック）、ODEN、他、地域のこども食堂や居場所、こども支援団体 計55団体</p> <p>【人材育成、相談支援団体】特定非営利活動法人すわ子ども文化ステーション、CAPS・すわ、共に咲く花の会</p> <p>【遊び場支援団体】特定非営利活動法人ちやいんどふっど</p> <p>【連携支援団体】NPO法人信州協働会議、繋inc.、公益財団法人長野県みらい基金</p> <p>【食材提供団体】NPO法人ホットライン信州、NPO法人フードバンク信州</p> <p>【行政】長野県、諏訪地域振興局、岡谷市、諏訪市、茅野市、下諏訪町、富士見町、原村</p> <p>【社会福祉協議会】長野県、岡谷市、諏訪市、茅野市、下諏訪町、富士見町、原村</p> <p>【企業】JA、テンホウフーズ、長野ろうきん他</p>
<p>(3)想定されるリスクと管理体制</p>	<p>各こども食堂での感染症の発生＝長野県のガイドラインや感染予防用品の提供情報の周知、感染予防対策の周知、訪問時の確認</p> <p>食中毒の発生＝こども食堂の衛生管理情報の周知、訪問時の確認</p> <p>実施時のけが＝ボランティア保険等の周知</p>

V.関連する主な実績

<p>(1)休眠預金以外の助成・補助金活用の有無</p>			
<p>コロナウイルス感染症に係る事業</p>			
<p>①本申請事業について、コロナウイルス感染症に係る助成金や寄付等を受け活動を実施している(予定も含む)</p>	<p>有 <input type="checkbox"/></p>	<p>無 <input checked="" type="checkbox"/></p>	<p>有の場合 その詳細</p>
<p>②本申請事業について、国又は地方公共団体から補助金又は貸付金（ふるさと納税を財源とする資金提供を含む）を受けていない</p>	<p>無 <input checked="" type="checkbox"/></p>	<p>※有の場合、選定の対象外となります（公募要領：助成方針参照）</p>	
<p>(2)申請事業に関連する調査研究、連携の実績</p>			
<p>発足時からこども食堂、居場所、こども支援の団体、ボランティア、これからこども食堂等を始めたい個人、団体、企業等の登録を募集し、行政等も含め80団体が登録し、130件にメール配信を行う。各団体の状況を調査し、2018年度には「みんなの居場所」の冊子とホームページに掲載する。2020年度には、実施団体の「みんなの居場所マップ」の作成を行い（現在作成中）、実施場所、実施内容、連絡先等の情報の確認を行っている。</p> <p>食材提供時に訪問等により、現状把握を行う。2018～2020年度にわたり、人材育成講座、団体力向上のための講座、交流会、居場所視察などの講座、研修会を行い、各居場所等実施団体や個人の現状把握と意見交換、地域の現状の調査研究を行う。設立当初から長野県との連携を持ち、各市町村や各社協との連携を構築する。諏訪地域の居場所運営団体、こども支援団体との連携を行い、メール配信、SNSでの情報発信、情報交換などを行う。</p>			